

令和3年度 県立守谷高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 知（確かな学力）、徳（豊かな心）、体（健やかな体）のバランスのとれた「生きる力」を育み、心身共に健康で、地域や社会に貢献しようとする人間を育成できる学校 (2) キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた進路実現ができる学校 (3) 保護者や地域社会との連携を深め、生徒・保護者・地域社会に広く信頼される魅力ある学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>授業改善 電子黒板を導入し、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業改善を進めている。ICT機器を活用した授業の研究・実践を重ね、生徒一人一人の深い学びの具現化を目指す。</p> <p>部活動の活性化 剣道部が、第30回全国高等学校剣道選抜大会に出場した。各部活動とも新型コロナウイルス感染症予防に配慮しつつ、地道な活動を継続した。その努力の成果を期待したい。</p> <p>働き方改革 月平均超過勤務時間数の10%削減目標を達成した。ICT機器を活用して、校務の効率化を図る。</p>	授業改善を主とした学力の向上	①主体的・対話的で深い学びの実現に向け、異校種の授業参観やICT機器を活用した授業の研究・実践を通して授業改善に努め、授業アンケートでは、満足度80%以上を目指す。	3
		②すべての教員が年1回以上授業を公開する授業研究会を通して、教師一人一人の授業力向上を図る。	4
	生徒の希望や資質・適性に応じた進路実現	③キャリアガイダンスを計画的、組織的、系統的に実施し、生徒の進路に対する意識の高揚を図る。	5
		④面談を通して生徒の希望及び興味・適性を的確に把握し、それらを踏まえた適切な進路指導により生徒の進路実現を支援する。	5
	基本的生活習慣の確立	⑤きめ細かな生活指導を通して、規範意識の高揚と公共の場におけるマナーの向上を図る。	5
		⑥規則正しい生活の習慣化を図る。遅刻については、10%の削減を目標とする。	5
		⑦薬物乱用防止やSNS上でのトラブル、交通法規遵守に対する意識を高め、健康で安全な生活を送ろうとする意欲を高める。	5
	特別活動・部活動の活性化	⑧HR活動、学校行事や生徒会活動、部活動において、生徒の主体性を大切にした活動を支援する。生徒会アンケートを通して、学校満足度を調査し、満足度60%以上を目指す。	4
		⑨HR活動において、キャリア・パスポートを活用し、学びの振り返りを行う。	4
	校外への広報と連携の充実	⑩HPやPTA会報などによる情報発信を適切に行い、本校に対する理解の深化を図る。	4
	働き方改革	⑪保護者との連携をさらに深めるとともに、地域の活動に積極的に参加したり、近隣小中学校との交流を進めたりすることによって、地域社会との連携の充実を図る。	4
		⑫質の高い授業や個に応じた学習指導を実現するために、学校や地域の実情を踏まえ、教師が担うべき業務を整理し、適正化を図る。	4
		⑬ICT機器を活用して、校務の効率化を図る。	5

三つの方針		具体的目標	評価		次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」 （スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラジュエーション・ポリシー）	自らを律するとともに、生涯にわたって学ぶ意欲を持ち、多様な他者と協働して、地域や社会に貢献しようとする人材。	5	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の興味関心や特性を活かした丁寧な指導・支援を継続する。 ICT機器を活用した授業の研究・実践を重ね、深い学びの具現化を目指す、不断の授業改善に取り組む。 学校説明会や学校HPを通して情報を発信し、本校の活動を的確に伝える。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた、きめ細かなキャリア教育や多彩な特別活動を通して、大学進学から就職までの進路希望実現	4		
	「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	将来を見据えて、主体的に行動し、自身の可能性を切り拓こうと学習や特別活動に積極的に取り組む生徒。	3		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国語	基礎学力の向上を図る。	漢字力、語彙力を高める。	4	3.8	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領改訂に伴う評価の改善を継続する。 ICT機器の活用（電子ブック・辞書アプリ・単語・漢字練習アプリ等の導入）を推進する。 ICT機器を用いた授業の相互授業参観を行う。 理・文系クラスでは大学進学を見据えて、発展的内容も取り入れた授業を展開する。 課外や月例テストを進路指導部と連携して計画的に実施する。
	表現力の向上に努める。	意見文や、詩・短歌・俳句等の表現活動を通して、言語活動の充実に努める。	4		
	読解力の向上に努める。	多彩な教材を用いて、現代社会の複雑多様な言語生活への適応を図る。	4		
	生徒の実情に応じた授業の確立に努める。	校内で研究授業、相互授業参観を行い、授業の改善に向けて協議し、主体的・対話的な授業について模索する。	3		
		各種研修会等で得た知識・スキルを、教科内で報告するとともに自己研鑽に努める。	4		
地歴・公民	基礎学力の向上を図る。	基礎的な用語や政治・社会制度などを理解させ卒業後に役立つ学力を培う。	4	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 少人数のグループ学習やペア学習での学び合いを通して、基礎的・基本的容の定着を図る。 分かる授業を展開し、成績下位者の基礎学力の向上を図る。 研修会などに積極的に参加し、新科目への理解を深める。 生徒が所有するタブレットなどを含めたICT機器を生かした学習を行う。
		教材を精選し、基礎的・基本的な内容の定着を図る指導の工夫をする。	4		
	主体的・対話的で深い学びを充実させる。	新聞・テレビなどのマスメディアや写真・ビデオなどの視聴覚教材を有効活用し身近なものとして主体的に捉えさせる。	4		
		白地図やプリント・整理ノートなどを活用し、生徒同士の対話を取り入れながら理解度を深める。	5		
	社会的事象への関心と探究心を引き出す授業を展開する。	問題意識を明確にするための社会的事象との出会いの場を設定し、課題を探究させる。	3		
		社会問題に対して関心を持ち、解決の方法および自分の意見を確立できるように、身近な事象を取り入れるよう努める。	4		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
数学	基礎学力の向上を図る。	生徒の実態に応じて、各単元の導入時に既習の基礎事項を復習し、新単元へのスムーズな取り組みを促す。	4	3.7 <ul style="list-style-type: none"> 課題演習やグループ活動等、主体的・対話的に授業に参加する機会を多く設け学びを深める。 学び合いを通して、基礎的・基本的内容を定着させる。 I C T機器を利用した授業の可能性を広げる。
		生徒の実態に合わせて各授業の導入時に前時の復習をし、毎回の授業への取り組みを促す。	4	
		学習内容の定着のため反復練習に適した練習問題を準備し、なるべく多くの問題を解く機会を与え、生徒が各自の疑問点に気付くよう促し、問題解決の手助けをする。	4	
		小テストを利用して学習の理解度を把握し、不十分な場合は復習の時間を設ける。	4	
	家庭学習習慣の定着に努める。	ワークシートを定期的に点検し、家庭学習の習慣が身につくように努める。	3	
	数学がわかる喜びを実感する授業への改善に努める。	積極的に授業を公開し、授業内容や方法について教科内で研究協議する。各種研修会に積極的に参加し、教科内で報告するとともに自己研鑽に努める。	4 3	
理科	基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。	各種研修会や相互授業参観を通して、授業の改善を図る。	4	4.0 <ul style="list-style-type: none"> 成績下位者の基礎学力向上を図る。 探究活動の充実を図る。 実施する実験の蓄積データを作成し、実態に応じた実験を行う。 感染症対策を講じた実験・観察を促進する。 I C T機器を活用した授業のプラットフォームを検討する。
		I C T機器を活用する場面を適切に選択し、学習の質を高める。	4	
		授業や学習プリント等を工夫し、見通しをもって学習できるよう指導する。	4	
	科学的な思考力・表現力の育成を図る。	考察・表現することの苦手意識を改善するため、ワークシートに考察部分の方向性を示す等、言語活動の工夫に努める。	4	
	科学的に探究する能力と態度を育成する。	自然の事物・現象について理解を深めるために、日常生活との関連を図る。	4	
		感染症対策を徹底しながら観察・実験が実施できるよう工夫改善を図る。	4	
基礎的な観察・実験を実施し考察させる等、探究活動の充実に努める。		4		
保健体育	基礎体力の向上を図る。	体力テストを実施し、運動能力を把握する。	4	4.0 <ul style="list-style-type: none"> 評価規準等を見直し、より適切な指導・支援を目指す。 先進的な取り組みの情報を収集し、保健体育でのI C T機器の活用を模索する。
		水泳・縄跳び・マラソンを必修とし、基礎体力を向上させる。	4	
	健康的な生活を明るく前向きに展開する。	自分自身の成長・発達をしっかりと受け止め、さまざまな課題に対処していく力をつける。	4	
		生活習慣病などに適切な配慮ができ、心身ともに豊かに過ごしていける力をつける。	4	
芸術（音楽）	音楽の基礎的知識を身につける。	学習プリントを利用して、楽語や形式を学習作品と結び付けながら具体的に理解できるよう工夫する。	4	4.0 <ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に則した評価の工夫を図る。 学習プリントに加えて、Classroom や Form 活用の機会を増やす。 感染拡大防止に努めながら学習活動の充実を図る。
	表現力の充実を図る。	実技試験や発表する機会を通して、表現することの楽しさや達成感を味わわせる。	4	
	鑑賞能力を高める。	音楽作品の聴き方と、感じたことを適切な言語で表現することができるよう工夫する。	4	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
芸術（書道）	授業を充実させる。	さまざまな用具用材を使用した作品作りを通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育む。	4	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 相互鑑賞や自己評価を継続して行うとともに、ICT機器を活用して鑑賞の質を高めるように努める。 タブレットを活用した探求的学びを行うよう工夫する。
	表現力指導の充実を図る。	臨書と創作の指導に努め、自己を表現する力を身につけさせる。	4		
	鑑賞力指導の充実を図る。	作品を鑑賞させ、説明事項や感想を書かせることによって、鑑賞力を高めるとともに書についての知識を身につけさせる。	4		
英語	基礎学力の向上を図る。	授業や学習プリント、課題等を工夫し、積極的に学習に取り組ませる。 小テストやドリル練習を活用し、基礎学力の定着を図る。	5 5	4.1	<ul style="list-style-type: none"> 学年間の情報交換を密にし、3年間を見通した指導をする。 教科会で指導法や、模試やGTECの結果の情報を共有する時間を増やす。 ALTの活用法。（全学年の授業に参加して生徒の話そうとする意識付けを図る。） 相互授業参観の実施や外部研修等へ積極的に参加して、授業改善を図る。 家庭学習の習慣化を図る。 タブレット使用についての研究を進める。 模試を精選し、学力把握を効果的に行う。 資格検定の受検を推奨し、学習意欲の向上に努める。
	主体的・対話的で深い学びの視点から4技能をバランスよく指導する。	インプットおよびアウトプットを連動させ4技能統合型の指導をする。	4		
		電子黒板・タブレット等のICT機器を十分に活用し、実践的な英語力を育成する	4		
	各種検定試験や外部模試に対応した授業の充実を目指す。	ALTを活用することによって、英語でコミュニケーションを図る喜びを感じさせる。	4		
		進路を意識させ検定試験等に積極的に取り組ませる。 GTECの結果を共有・分析し3年間を見通した指導を展開する。	4 4		
	教員の指導力の向上を図る。	相互授業参観を通し、授業改善に努める。	3		
		研修等への参加を促す。	4		
家庭	家庭の基礎的・基本的な知識を身につけさせる。	学習ノートや独自に作成した学習プリントを使用し、実生活を振り返り、学んだことと結びつけながら具体的に理解できるよう指導する。	4	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ミライタッチを活用した教材の充実を図る。 生徒の実態に合った生活向上に向けての授業展開を行う。 感染症対策を考慮しながら、実習内容の充実を図る。
	家庭生活を向上させるために必要な基礎的・基本的な技術を身につけさせる。	実習時間を確保し、生活に必要な基礎的・基本的な技術の定着を図る。	3		
	生活について見直し、適切に判断し工夫創造する能力を身につけさせる。	5月の連休中に家庭クラブ週間を設け、家庭生活の見直しを図る。授業で学習したことを生かし、夏季休業中にホームプロジェクトを実施する。冬季休業中にも、5月と類似の課題を与え、家庭生活の見直しを、家族とコミュニケーションをとりながら実施する。	4		
	授業に意欲的に取り組むとともに実践的態度を身につけさせる。	定期的に課題を点検し、提出物の充実を図る。	4		
情報	情報社会を支える情報技術の役割や仕組みを理解し情報社会の課題について考える。	基本的な情報リテラシーを身につける。	4	4.3	<ul style="list-style-type: none"> 新課程に向けての準備を十分に行う。 実態に即したプログラミング言語の選定を行う。
		情報安全（法律や個人の責任など）を学ぶ。	5		
		ネットワークを適切に活用して、問題解決に必要とされる事柄（問題の明確化、情報の収集、整理・分析、解決策の検討など）を体験的に学ぶ。	4		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題				
教務部	授業研究を推進する。	学力向上推進委員会と連携し、校内公開授業を実施し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究を推進する。	3	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 校内公開授業の参加者が少なかった。学力向上推進委員会と連携し、参加しやすい仕組みを考える。 ICT機器を活用した授業環境を整えとともに、活用方法等の研修を行い、ICT機器を活用した授業の推進に努める。 			
		情報管理部等と連携し、ICT機器を活用した授業環境の整備を図るとともに、研修等を通して広めて行く。	3					
	基礎学力の定着を図るとともに、成績不振者への対策を講ずる。	進路指導部と連携し、学びの基礎診断認定ツールを活用し、基礎学力の定着や学習意欲の喚起を促す。	4					
		考查対策補講を効果的に実施し、学力の向上を図る。	5					
	働き方改革	ICT機器を活用して効率化を図り、校務の負担を軽減する。	5					
進路指導部	進路希望の実現を図る。	進路と学年の連携を密にして情報の流れを円滑にし、生徒の現状を正確に把握するとともに、一人一人の興味関心や特性に応じた指導に心がける。	4	4.4	<ul style="list-style-type: none"> 3学年の進路で連携して「3年間を見通した進路指導」を行う。 キャリア・パスポートの活用法や意義について、教員間で情報を共有して取り組む。 各教科において「中堅私大入試を見据えた指導」の浸透を図る。 総合系の基礎学力の底上げを行う。 コロナの中、校外で行う活動の方法について、先進的事例を研究して、研究する。 実態に即した模試を精選して実施し、学力把握を適切に行う。 			
		計画的な進路行事を通して、進路に対する意識を高める。特に総合型選抜及び学校推薦型選抜の入試において安易な決定に流れないよう丁寧な対応を心がける。また、中堅の私立大学の一般入試を見据えた指導の充実を図る。	4					
	進路意識、職業観を高める。	進路ガイダンス、進路LHRの充実と共に、総合的な探求の時間を利用し、主体的に進路学習に取り組ませる。	5					
		キャリア・パスポートを活用し、自らの成長と変容を認識し、将来への展望や見通しを立てる。	3					
		上級学校・職場見学会を実施し進路に対して具体的イメージを形成する。	4					
		進路講演会、適性検査、面接指導を実施し、意識の向上を図り、生徒の進路実現を支援する。	5					
	基礎学力の向上を図る。	平常課外、夏季課外や資格取得への生徒の積極的参加を促す。	5					
		各種模擬試験、小論文模試を生徒の実情に合わせて的確に実施し、学力の向上に役立てる。	5					
	生徒指導部	遅刻、服装頭髪指導を徹底する。	週番体制を組んで毎月遅刻指導を実施する。			4	4.1	<ul style="list-style-type: none"> 自転車通学・バイク通学者への登下校指導の徹底を図る。 特別指導の軽減を図るため、生活マナーの向上に努める。
			始業式及び定期考査最終日に全校一斉の服装頭髪指導を行う。			4		
マナーアップ講演(習)会を実施する。			5					
交通マナー、安全意識の高揚を図る。		学年ごとに交通講話を実施する。	4					
		交通安全運動に積極的に参加するとともに、自転車通学者への指導を徹底する。	3					
心の教育をする。		他人の考えや、気持ちを理解できるようにし、いじめのない学校作りを日ごろから授業やLHRを通して指導する。	4					
環境を整備する。	校舎内外の点検を進め、事故防止に努める。	5						

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
情報管理部	学校ホームページの整備・更新	本校の教育・指導方針を明確にし、生徒の活動状況情報を具体的に示すことによって広報の一端を担う。また、年間の行事予定等の情報を示し、保護者との連携・協力体制を作る一助とする。	4	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策等での在宅勤務を想定し、共有フォルダに加えて Google Drive 上での共有を進める。 ・授業で使える機器(DVDプレイヤー等)の要望を各部署、学年等で募り、充実を図る。
	成績処理システム管理	統合型学校支援システムの管理、運営を行う。また、調査書・要録等が滞りなく作成できるよう整備を行う。成績会議資料等の作成を行う。	5		
	学年に対してのICT関連のサービス	重複したファイル作成に費やす時間を短縮できるようにする。(名簿等データのフォーマットの統一等)、GIGA スクール構想への対応	4		
	緊急情報メール配信システムの活用	登録率の向上を図るために、年度初めのオリエンテーション等を活用する。	4		
保健厚生部	心身の健康に関する知識や能力を育て、健康な体をつくる。	健康状態の把握に努め、消毒、換気、マスク着用を促すなど適切な指導や援助を行い、疾病等の予防と管理を徹底する。	4	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防に努める。 ・校舎内外の美化を推進するため、事務部と連携して、予算を確保し、計画的に補修を進める。
	心身の健康の保持増進に努める。	教育相談活動の充実を図り、スクールカウンセラー等を活用して生徒の精神面の健康の保持に努める。	4		
	健康で安全な学校環境の整備に努める。	施設設備の安全点検・管理の徹底を図り、事故や災害が発生した場合には適切な応急処置や安全処置ができるよう学校安全の推進を図る。	4		
		防災についての意識を高め、状況に応じた安全確保ができる態度を身につけさせる。	3		
環境美化意識を高め、校舎内外の清掃に努める。		4			
特活部	ホームルーム活動や学校行事を通して、帰属意識や協調性、責任感を養う。	学校行事を利用し、責任ある行動が取れるよう指導していく。 感染症対策を徹底した学校行事の運営ができるよう創意工夫をした上で、生徒が主体となった企画・運営を実施させる。	4 4	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を行った上で、形態を変えて行事を企画運営することができた。次年度は40周年記念式典に合わせて行事の時期の検討を行う。 ・加入率は微増であった。女子や文化部を中心に部活動への加入率を上げる。
	部活動への積極的な参加とその継続を図る。	部活動の加入率を上げ、生徒の自主的・自発的な活動と実績の向上が促進されるよう、顧問への適切な指導・援助を行う。	3		
		部活動を通して心身の鍛練と健康増進を図る。	5		
	広報活動の一端を担う。	学校行事や部活動の活動状況が校外へ広く伝わるよう、データの収集・蓄積・管理を行う。	4		
図書部	利用しやすい図書館を目指す。	利用者が閲覧しやすい環境を整備する。 新しい生活様式での図書館利用の留意点を周知する。	4 4	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用は例年同様に3年生の進路学習中心であった。1、2年生の利用を促す工夫をして行く。 ・来館数を増やすための季節行事等を図書委員会で作成するよう努める。
	本の貸し出し冊数を増やす。	新着本の紹介を図書便りとして発行して、貸し出し率アップを目指す。	3		
	選書の充実を図る。	幅広い分野からの選書に努める。	4		
		生徒の読書傾向なども加味した選書を心がける。	4		
図書館主催の行事を行う。	生徒参加の季節行事等、図書館からの積極的な発信に努める。	3			
渉外部	P T A 活動全般の活性化と充実を図る。	学校諸行事およびP T A 活動に対し、役員だけでなく、広く会員が参加できるように企画し、会員相互の親睦を深める。	4	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事実施の際、P T A との連携を図り、広報誌の充実を図る。 ・P T A 広報誌作成に伴う広報委員会は、例年保護者面談時に同時開催しているため、担当は担任以外が望ましい。
		本部役員と各専門委員との連携を図り、学校行事が円滑に進むように努める。	4		
		会員への連絡の周知度を高め、かつ学校からの通知がきちんと会員に届くようにする。	4		
	同窓会活動の充実を図る。	同窓会役員との連絡を密にして、組織の活性化を図り、同窓生の連帯を深める。	3		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
1 学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。	学年集会に加え、日常での生活指導を通して服装、身だしなみ、挨拶、言葉遣い、規則の遵守等の指導を徹底し、規範意識を高める。	4	3.8	<ul style="list-style-type: none"> 校則の確認を、年度当初に教員・生徒ともに確認をする。 英語の辞書アプリの導入が難しい。教科ではなく、学年全体での対応が必要である。 Macアドレス収集、貸与タブレットなどのタブレット関係のルールや制度を整える必要がある。 タブレットの活用ができていない。ICT機器を活用した授業のプラットフォームがあるとよい。現在は個人裁量のため、個々の能力に左右される。
		欠席・遅刻への指導を徹底し、規則正しい生活を促す。	4		
	授業を大切にし、基礎学力の定着を図る。	中学校の復習を含めた基礎学力の向上を図り、高校生活での授業理解につなげる。また、教員間で授業の状況等について情報を共有するとともに、面談を通して生徒理解に努め、学習について適切な指導や援助を行う。	4		
		タブレットなどICT機器の効果的な活用による新しい時代に対応した学びに向け、授業改善を行う。	3		
	進路意識を高め進路の方向性の明確化を図る。	2年生でのコース選択に向け、進路に関する適切な情報を与えるとともに、生徒個々の希望・適性に応じた指導を行う。	4		
		道徳やHR活動を通して、長期的な展望に立った進路の意識づけを行うとともに、社会の一員としての自覚を持たせ、自己のあるべき姿を考えさせる。	4		
2 学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。	服装・身だしなみ、あいさつ、言葉遣い、マナーなどの指導を徹底し、社会人として必要なことを身につけるよう継続的な指導をする。	4	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 担任が中心に生徒との面談などで生徒理解が進んでおり、生徒は落ち着いた学校生活を送っている。 休校中に双方向授業を行うことで、基本的な生活習慣の改善を図ることができた。 進路行事の減少で進路選択に悩む生徒が多数いる。 総合クラスの学習習慣維持のための手立てができていなかった。 生徒指導をしっかりとすることで学習に気持ちが向くので、課外、検定など学習する雰囲気作りが大切である。 ボランティア参加率が低く、引き続き支援して行く。 スカートなどの服装の乱れを見逃さずに指導を継続する。
		欠席・遅刻・早退について家庭と連携し、指導を行っていく。規則正しい生活を促していく。	4		
		信頼される社会人として成長させるために、ルールを守ることができるよう指導する。	4		
	基礎学力を土台にしたさらなる学力の向上を図る。	進学クラスは上級学校の一般入試にもチャレンジできるような学力をつける。さらに進学後にきちんとついていけるような「真の学力」をつける。	4		
		総合クラスは授業をしっかりと受けさせるとともに、家庭学習の習慣を定着させていく。成績下位層の生徒たちの学力を引き上げることで学年全体の学力を上げていく。	4		
	進路学習の充実を図る。	1年次の進路学習で取り組んだ「自己理解」を受けて、前期ではさらに自分の興味・関心や適性についての理解を深めさせ、今後の進路選択に生かしていけるよう指導する。	4		
		後期は進路選択をメインにし、この時期を実質的な入試・入社試験のスタート段階と捉え、学力をつける指導を軸に、面接・小論文対策などを行い、進学・就業意識の向上を目指す。	4		
		外部模試を意欲的に受験させ、資格・検定の重要性を理解させ、積極的な受験を促す。	4		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
3 学年	進路希望の実現を図る。	個々の生徒の進路希望に加え、その個性や適性を的確に把握した上で、本人・保護者・担任の三者が十分に協議し、情報を共有する。それに基づき個々の進路実現のための具体的な指導をする。	5	4.4 <ul style="list-style-type: none"> ・服装・身だしなみの徹底を図る。（特に女子のスカート丈の適正化） ・遅刻多数者への指導を家庭と連絡を密に取りながら、連携して継続的に行う。 ・理・文系クラスで下位層に停滞している生徒の成績を引き上げるための学習指導の確率を図る。 ・進学指導（OC 参加・模試計画・大学研究・入試対策等）を系統立てて行うために学年主体ではなく、進路指導部主体で実施できるような体制が望ましい。 ・進路決定後のゆるみをどう防ぐための対応策が必要である。 ・学力をつけるための教材の購入・模試代・検定代・タブレット学習で活用するアプリなど、これまでよりも多くの費用がかかることが予想される。これまで以上に、年度当初の学年費の予算立てをきちんと行う必要性を感じた。
		HR活動、学年集会、ガイダンスなどを通して、進路に関する最新の情報を適宜提供することで、生徒の進路活動をサポートする。	5	
		進路別課外の実施および面接練習指導の充実を図る。	5	
		進路実現の一助となる資格・検定を取得させるための環境を設け、積極的な受験を促していく。	5	
	基礎学力の定着を土台にさらなる学力の向上を図る。	大学進学希望者には一般入試にもチャレンジできるような学力をつけさせ、さらに進学後の学びに十分対応できる「真の学力」を身につけさせる。	4	
		授業を第一に取り組ませる。加えて家庭学習の習慣を定着させる。	4	
		外部模試を受験させ、その結果を個々の生徒の進路指導に生かしていく。特にG T Zゾーン下位層の生徒たちの学力を引き上げ、学年全体の学力を上げていく。	4	
		資格・検定にチャレンジできる学力を育成する指導を提供する。	5	
	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。	服装・身だしなみ、あいさつ、言葉遣い、マナーなどの指導を徹底し、社会人として身につけるべきことを教えていく。	4	
		欠席・遅刻・早退について家庭と連携し、継続的な指導を行っていく。規則正しい生活をする事で心身ともに健康な体を作られることを教えていく。	3	
		社会に出るにあたってルールを守ることができるよう指導する。	4	

※ 評価規準：5：非常によくできた、4：よくできた、3：普通、2：あまりよくできなかった、1：できなかった